

トヨノから来た人

東海大学に入学した1964年、放送研究部へ入部した同期に、八巻勝君がいました。

当時、彼の下宿と私の家路の方向が一緒で、帰り道に色々話していると北海道が出身と聞きました。私は高校時代、雑誌の文通欄で知り合ったペンフレンドに北海道のトヨノに住む女性がいました。彼女は「トヨノ高校に通い、学校は十勝岳や空知川の自然が豊かな場所に有り、北海道で2番目に大きい高校に通っている」と話していました。そのうちに、八巻君が自分の住んでいた場所に似ていると言うのです。よくよく話が進むと、その場所はフラノと言う町で、私が間違えてトヨノと発音していたことを知りました。今ほど富良野がメジャーな時代ではなかったので飛んだエピソードです。

ずっと後ですが、2008年に放研に入部して、副委員長兼OB連絡担当をやった平子真理さんが富良野高校の卒業と聞きました。

八巻君とは、北海道の大陸的な大らかさが私の性格に合ったのか、時間が有ればよく彼の下宿に寄りました。ある時高校時代の卒業アルバムを見せて貰ったら、私が文通していた彼女が、八巻君と同高校・同学年で、彼女が学校で一番の美人で、しかも放送部のアナウンス部だったと聞いて驚きました。彼女は確かに綺麗な人で、私が手紙で貰っていた写真は遠目だったので、この写真と卒業アルバムのポートレートとどちらが本人に似ているか、八巻君に聞いた事がありました。

余談ながら、その彼女は高校卒業後、東京の出版会社に就職して、「有名な作家先生とお写真をご一緒しましたの」という話を聞きました。

それから7年後のある時、私の地元の街でその作家先生を偶然にお見掛けし、その4日後に、その作家先生は、海辺の自室で命を絶たれたというニュースを聞いて大変ショックを受けました。

放送研究部で私は技術課、八巻君は編成課に所属していました。彼はもともと文才が有り、高校時代は新聞部で活躍していたそうで、どうりですらすらと脚本を書いたりして、羨ましい才能の持ち主でした。

夏は放研の合宿で石打ロッジへ行き、3日間は缶詰になり議題を設けて真剣に討議して、終わると川で泳いだり、キャンプファイヤー等で遊び、また冬には大学の榛名山荘で合宿とアイススケートに興じたのが楽しい思い出です。私はスケートがうまくないので、何度も転んで頭を強打したのですが、何とか無事に卒業できました。

その後卒業してからも八巻君とは、お互いの結婚式に出席したり、ある時は彼が我が家に赤い風船を持って遊びに来て、娘がとても喜んだ記憶があります。

還暦を迎えて間もない頃、彼の住んでいた宮城で良い再就職先が決まり、祝い酒を飲み過ぎて、帰り道に不慮の事故で急逝されたとの知らせを聞き、もう二度と会えなくなったことは今もとても悔やまれてなりません。

海津